

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第91号 (2022. 11. 13-2022. 11. 20)

- ◆ 参加者おかもとかも、石原とつき、橘月子、しまねこくん、正念亭
若知古、IZU、MIYA、日下躰子、さー、小沢史、風池陽一、stacy、鷺
沼くぬぎ、とるはじーる、星野響、菊池洋勝、西脇祥貴、元さん、森
内詩紋、輪井ゆう、てくてく、岡村知昭、雪上牡丹餅、まつりへきん、
海馬、しろとよ、mawort、花野玖、人見式一、宮坂愛哲、池田吉輝、
徳道かつみ、ぼっぼ、斌、白水ま衣、みや、式定住佳、馬勝、のこり
か庵、雲上晴也、あ、たろりずむ、蔭一郎、涼閑、鶴子、木野清瀬、
水の眠り、内山昂生、鴨川ねぎ、和泉明月子、ゆりのはな、¹「Inuitopia」
Tomoko、西沢葉火、Ryu sen、ゆふなみ、EG、あこせみ、須藤はる、
日下泉、まじもてとま、桔梗薫、ゴト一、梓川葉、藤井阜、霧雨麗
理沙、BRIGGS、望月華もちつきはな、石川聡、千春、高木タツ
オ、² cissá possa 芥川美香、思雨(スイ)、Asura's Herald、新出既出²
0、原恵子、白石ポピー、月波与生(七九名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

- あとがきに家出と書いて金木犀 千春
泣きながら口紅としてきぜつする 藤井阜
医者ガチャに外れる胸や破芭蕉 菊池洋勝
後ろにもきちんと顔がある案山子 しまねこくん
出さない手紙に無我夢中でした 石原とつき
笑窪さえ歩道橋では禁止され おかもとかも
六本木 いったん無かったことにします おかもとかも
木枯は好き、待ち人に会えるから IZU
陸と海、兎と鮫と嘘と歯と IZU
諦めが悪い女のスクワット 徳道かつみ
さめはだのきようはさむくてらっぱ吹く 岡村知昭

郷ひろみいつなんどきでも郷ひろみ 水の眠り

石鹼の消費期限が過ぎた家 西沢葉火

予想ではパン屋のパンが動きだす 海馬

ウオッカに浮かんだ海は冷たいか 蔭一郎

透明は最も難解な言語 白水ま衣

自宅ではマスクを外すカメレオン 雪上牡丹餅

Twitter よりも世界が終わりそう たろりずむ

旧姓で呼ぶしかなくて湯冷めかな 馬勝

湖面には浮動小数点の群れ まつりぺきん

喧嘩して一人ぼっちが二人いる 宮坂変哲

La maison Dieu とどめなら自分で刺す しろとも

わかっってはくれない蠍座のキリン 岡村知昭

しんどさの果てはスナック泥恵比寿 西脇祥貴

置き去りにされた三拍子のリズム MIYA

隼が飛ぶよ夢よりずっと先 IZU

北風と砂場に残る三輪車 IZU

ポケットの中にも牡蠣があるだらう しまねこくん

パンドラの箱もあしたは資源ごみ 橘月子

はなさへん びりけんさんの うしろがみ 正念亭若知古

母のコツホットケーキはテフロンで！ さー

沸いているからだのおくのみずたまり 小沢史

待たされて膝を崩しぬ実千両 syusyu

枯蓮の沼に缶空眠る寂 鷺沼くぬぎ

君と行く縁切り寺の冬紅葉 とるばどーる

凧が胸の歯車吹き抜ける 星野響

クリスマスソングで霞んだ霜月 輪井ゆう

静寂とスノーピークの灯油の香 てくてく

月曜に向かって走るオートバイ まつりぺきん

神渡めける幻想即興曲 migwort

モノクローム綿虫の舞ふ坂の町 花野玖

まだ暗き温泉上がり朝寝する 流天

届かない言葉を折って鳥にする ぽつぽ

かわいいワッフルのこたつぶとん毛羽両目に 斌

やめてくれやめてくれたらやめてくれ 式定住佳

寝そびれて猫を懐炉にサブスク見 のこりか庵

冬茜残務は星となりにけり 雲上晴也

見納めの世界北窓塞ぐ夜 あ

すき焼きの肉の薄さや給料日 宮坂変哲

闇の手に渡す答えない未来 涼閑

この先は吾ひとりゆく冬の道 鶴子

二つ星せめて一つの川面にて 木野清瀬

インク切れ私のアカウントどこへやら 内山晶生

心臓にりっしんべんを付けてやる 鴨川ねぎ

ハロウィンで転んだ先の天使の輪 ゆりのはなこ

落葉朽つ高瀬舟には成りきれず hyutroppa

トンネルも鉄橋もゆく墓参り 風池陽一

赤い月 ビデオ通話で父母と見る Tomoko

枕辺に狩人の段取りを聴く あ

七五三行は佳良い帰りはハラハラ 日下昊

平穏になるまで荒地踏めば瞬く まつもとともこ

知恵しぼる駐在仲間のワル三人

中華店饜をねだつた冬始め 桔梗葦

君がため ウィスキー棚 品定め 梓川葉

インスタントラーメン型ベットベッド 霧雨魔理沙

新幹線で喉とイドに響く魔王 石川聡

あかねさすもみじの向こう青い空 池田吉輝

飼い主が戻って来ない籠の鳥 高木タツオ

三丁目冬 薔薇薫るシーン4 芥川美香

顔をあげたら 昨日が見えた 思雨

笑点をわらうファントムシンドローム 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

木々たちの香りを吸って吐き出せば私も森の一部と思う
望月華

スタンプで 隠す本音が分からないごめん私は金田一じゃ
ない しろとも

半世紀生きてもわからぬことだらけ 8分かけて歯磨きを
する 森内詩紋

単三を買えど入れれば単四のリモコンだったような職場た
風池陽一

罰としてカップ麺へと湯を注ぎ消極的に痛めつけてる ゆ
ふなみ

階段は歩きたくないのになぜかエスカレーターでは歩きた
い 雪上牡丹餅

紫煙吹き足立区民より届きし不幸の手紙を読んでいる 人
見式一

静寂な夜に妖しい夢の中女神と出会う奇跡信じて 元さん
優しくてやさしくしててさいごまで許されるならわかれの
ときまで みや

投げられた針は未だに刺してくる常世にわたし住まわせた
まま 和泉明月子

もうおやすみよ枕元に外した眼鏡の瞼もそつと下ろして
BSG

何キロよ？いくら問ふてもこう答ふ458だよめー重いな
あこせみ

柿と栗葡萄と秋の夜の孤独静物画にす筆の柄(え) 冷たき
須藤はる

私のカムパネルラになつてくれない？大丈夫分かっていて
くれないのは ゴトー

イルカイラヌカニジイルカソラヲナガメテミヤシャンセ
PERCHES

ひらひらと暖炉は燃える夜明けまで それまで生きている
のだろうか 望月華

◆ 詩

蝸壺を買った

トセンチほどの蝸壺

この蝸壺に入れる立派な

蝸にならねばならない

(日下踏子)

◆ 作品評から

逃げ腰は新生活に欠かせない Ryu_sen

「逃げる」ということが卑怯と言われなくなったのは
とてもいいことだ。『石の上にも三年』をいう老人もまもな
く絶滅するであろう。(月波与生)

陸と海 兎と鮫と嘘と歯と IZU

～land and sea,

and rabbits and sharks

and lies and teeth (Asura's Haiku)

喧嘩して一人ぼっちが二人いる 宮坂麥哲

～真理ですね、明日には仲直りしたいものです。(花野玖)

北風と砂場に残る三輪車 IZU

～好きです。(新出既出20)

漬物になる瞬間を見逃した おかもとかも

～漬物になる瞬間を見逃したって生きて行く上でどって
ことないのだがたくさんのだってことない現場の当事者で

いることが豊とも言える。さて今日ぼくたちは何を見つけ
るのだろう。(月波与生)

この先は吾ひとりゆく冬の道 鶴子

～Me too! 私もです(原恵子)

六本木 いったん無かったことにします おかもとかも
～「六本木」まで言いかけて、リセットしようとしているのか、
「無かったこと」 無効化を、ゼロではなくやり直しの意
にする「いったん」が効いていると思います。こういう句、
好きです。(まつりぺきん)

二枚ずつ枯葉を留めるホツチキス しまねこくん
千の手で千の枯葉を裏返す しまねこくん

～枯葉二句。どちらも数字を用いているのが創作のデッ
サンを見ているよう(月波与生)

予想ではパン屋のパンが動きだす 海馬

～やはりそうか。街の危機に真っ先に反応するのはパン
屋のパンだ。続くのは肉屋の肉か魚屋の魚か。酒屋の酒は
いつでも寝返る準備をしている。ケーキ屋のケーキは泣き
じやくるばかりだ。(徳道かづみ)

カーテン越しの泣く声秋の金魚かな 菊池洋勝

～相部屋の入院室。見舞客が帰った後、静かな嗚咽がカ
ーテン越しに聞こえてくる。「秋の金魚」に立ち入ることの
できない哀しみを感ずる。

僕らには古賀新一がついている！ 徳道かづみ

～古賀新一のホラーを怖いと思わないのは黒井ミサによ

って物語が落着くからであろう。彼女は不確かな生と死を落ち着かせてくれる妖精なのだ。エコエコアザラク。(月波与生)

新幹線で喉とイドに響く魔王 石川聡

〜新幹線で魔王呑んでる方はなかなか見ないですよー！
笑 これはイドに響きますねー！ (白石ポピー)

君と行く縁切り寺の冬紅葉 とるばどーる

〜良い句ですね… (雛子)